

無災害 20 万時間をめざして

新城営林署 熊崎 頼之

1. はじめに

清崎貯木場は、昭和 46 年 12 月に設置されて以来、10 年間無災害を続け現在、186 千時間に到達した。

この成果は、先輩諸氏及び職員の努力の賜物である。

2. 貯木場における不安全項目に対する具体的内容とその対策について、私たちが実行してきた内容

(1) 安全に対する取り組み

ア 職員の取り組み

(ア) 一週間交替で安全当番制を採用して、その日の作業内容によって始業時に当番が具体的に注意し、終業時に安全日誌を記入すると共に、その日のヒヤリ、ハッとしたことを、全員で話し合い、以後そのようなことのないように確認している。

(イ) 安全懇談会を 2 カ月に 1 回実施し、更に、毎月 1 日を「安全について話し合う日」として、始業時に実施している。

イ 請負業者への取り組み

(ア) 年 1 回、営林署において各関係業者を集めて安全懇談会を実施しているので、貯木場としても積極的に参加するよう要請する。

(イ) 貯木場でも、年 1 回安全懇談会を実施して、具体的な内容を話し合い、理解してもらっている。

さらに、天候の悪い時、新しい人がきたときなど、その都度、注意を喚起する。

(2) 具体的内容を検知業務、請負業者、木材買受業者に分けて説明する。

ア 検知業務について

○ 天候に左右される作業は、足場が滑りやすいことである。

○ 対 策

その日の天候の状態により作業を中止するかどうかを、その都度検討して、始業時等に指示する。

○ 具体的作業は、白線巻、防虫駆除等である。

- (ケ) トビによる作業は、トビの使い方にある。
- 具体的内容
検知箇所では丸太に、トビを軽い気持で打込み強く引き、トビが丸太から抜けて転倒しそうなことがある。
冬期間は、丸太が凍結しているにもかかわらず、トビの打込みが確実でなかったのを、強く引き丸太からトビが抜けて転倒しそうなことがある。
 - 対 策
トビの先は始業時に必ず点検し、悪いものは使用しないようにしている。
トビは丸太に強く打込み作業をすること。
冬期間は、トビの打込みには特に注意して作業すること。
- (イ) フォークリフトとの連携は、職員とフォークリフト運転者の相互の連携にある。
- 具体的内容
フォークリフト運転者が、検知箇所へ丸太を並べるときに、絡んでいるのを確認しなかったために、検知中の職員のところへ回転して当たりそうなことがある。
フォークリフト運転者が、桟積作業のために、検知中の職員に接近して丸太が当たりそうなことがある。
 - 対 策
フォークリフト運転者は、検知箇所へ丸太を並べるときは、職員の誘導に従うよう指導。
フォークリフト運転者は、検知箇所では職員等が作業中のときは、作業の終了後に運転するように指導。
- (ウ) 玉装造材作業との連携は、盤台上での基幹職員とフォークリフト運転者との相互の連携にある。
- 対 策
フォークリフト運転者は、全幹材と盤台へ荷卸しする時は、十分確認し、声をかけてから作業を進めるよう指導。
- (エ) そ の 他
- カンザシの腐朽したもの。
 - 具体的内容
細い丸太であり、桟積後に腐朽して、丸太の一方が崩れやすくなっていたことがある。
 - 対 策

極の上での作業、例えば、白線巻等において、非常に危険であるので、古軌条でL字型及びT字型の鉄棒を作製して、これに切り替え安全を確保した。

- 樹皮の剝離によるもの
- 具体的内容
人工林ヒノキが90%を占めているために、樹皮の剝離が多く、剝離した樹皮が安全地下袋にひっかかり転倒しそうになったことがある。
- 対 策
検知前には、剝離した樹皮を取り除き、検知後及び搬出済後に整理する。

イ 請負業者について

- (ア) フォークリフトとの連携は、先に述べたので省略する。
- (イ) トビによる作業は、検知業務と同じであるが、過去にあった事故について説明する。
 - 具体的内容
仕訳作業中に、細い丸太を直接手でころがしたため、指を骨折したことがある。
 - 対 策
細い丸太でも、絶対に直接手を使わず、トビを使用して作業するようにする。
トラックからの荷おろしには、かならず職員が周囲の安全を確認し、職員の指示に従って、荷おろしを実行する。

(ウ) 保安帽の不着用

- 対 策
保安帽は、かならず着用して作業を実行させている。

ウ 木材買受業者について

- (ア) フォークリフト及びクレーンによる積込み作業は、積込み時の確認と作業者間の連絡にある。
 - 具体的内容
フォークリフトで積込み作業中に、作業基準を守らなかったために、丸太がフォークリフト上から落下したことがある。
 - 対 策
素材の引渡しの際に、作業基準を説明し理解してもらい、安全確保をしている。
さらに、作業中にも、不安全行動があった場合は、周囲に聞こえるように、大きな声で随時注意する。
- (イ) トラック上での荷しまり作業は、足元の確認が大切である。

- 具体的内容

荷しまりの最中に、足元を確認しなかったために転落して、アゴを3針も縫う事故があった。

- 対 策

素材の引渡しの際に、過去にあった転落事故を説明し理解してもらおうと共に、作業中にも大きな声で、随時注意する。

- (ウ) 保安帽の不着用

- 対 策

契約のときに、保安帽の着用を要請し、貯木場でも着用を指導

3. ま と め

貯木場での無災害達成は、毎日の安全について、主任と職員、職員間及び業者について、何時でも、何でも話し合える環境を作り、不安全行動を排除し、安全を確保するという意識の定着にある。今後も、10年間の無災害の経験を生かして、災害のない明るい職場を作っていく所存である。